

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ファーストクラス久米田校		
○保護者評価実施期間	R.08年 2月 10日		～ R.08年 3月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	R.08年 1月 20日		～ R.08年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R.08年 4月 3日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者様/保護者様からの満足度が高い。	・利用者一人一人に合わせた支援作りと、支援方針と支援意図についてをこまめに保護者と情報共有を行っている。必要であれば随時面談も設定し聞き取りを行っている。 ・些細な変化やSOSにも気付けるように、言語/非言語問わず、コミュニケーションについて重きをおいて意識的に関わっている。	・職員によって支援の偏りや支援に差が出ないように、共有する時間を意識的に増やし、安心の材料がより厚くなるよう努めていきたい。 ・教室からの業務連絡以外の広報が薄いため、Instagramの活用などもっと充実させ全体的な雰囲気や支援内容を知る機会を増やしていく。
2	ご本人の状態や保護者様のニーズに合わせて、柔軟な支援方法を取り入れている。	・刻一刻と変わる環境や、ご本人様の状況に合わせて、保護者様と定期的な方針の見直しをご相談させて頂き、定期的にプログラムや支援内容を作成させて頂いている。 職員同士でもこまめなミーティングや情報共有の場を設けて、利用者様の支援について多角的なアプローチが組めるように配慮している。	・アプローチの手段を多くすることで、より綿密にニーズや本人の状態に合わせられるよう、既存のもの以外にもツールを増やしていきたいと考えている。
3	利用者様の理解を十分に行い、また更新していけるよう日々のコミュニケーションが豊富である。	利用者様の得意なこと、苦手な事を各職員それぞれが理解しており、全体での情報共有の場作りで余念がない。 また、細かな日常の話でも保護者様からお話頂けるよう、コミュニケーションの取りやすい雰囲気づくりを行っている。	送迎車利用でなかなか職員と話す機会が持てない保護者様もいらっしゃる中で、そういった保護者様からも話を伺う機会を積極的に作っていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動のスペースについて、広さが十分と感じられていない。	国の基準に基づいた活動スペースは確保できているものの、利用者の年齢が高くなるにつれ、身体も成長してきており、以前よりスペースが狭く感じられる場面が増えてきたのだと考える。	スペースの活用について、用途により場所を区切るなど工夫を凝らす。 活用出来る場所に限りがあり、実際的に広くしたりなどは実現が現実的ではないので、机や棚の配置等によって広く使う工夫を行ってみたいと考える。
2	安全系のマニュアルや訓練が周知されていない。	教室のSNS(Instagram)を見たことがない保護者様もいらっしゃる中で、訓練などの実施状況や情報はそこでの報告にとどまる場合が多いのではないかと考える。	マニュアル等はHPに記載をし、保護者様にも確認してもらいやすい工夫をはじめ、周知頂けるような工夫を行いたいと考えている。 また、SNSでのお知らせ以外に公式LINEでの一斉送信でのお知らせや予定表への記載など、他支援の妨げにならない形での周知の仕方を模索していきたい。
3	教室のバリアフリー化や視覚支援の掲示物が少ない。	学習的な支援面として、集中を伸ばす訓練を行う関係上、机のスペースの掲示物は0にして工夫しているが、反面その分だけ視覚支援のための掲示物は少なくなっている。 個別に対して、特性に応じたツールは用意しているが、全体に対しての支援ツールとなると少なくなることが原因ではないか。	机スペースの掲示物0はそのままに、玄関周りや水回りなどの支援の掲示物や、見える化の工夫を充実させていきたいと考えている。 現在進行で取り組んでいるのは、物の住所と名前を明らかにして、見て収納場所が分かる工夫である。